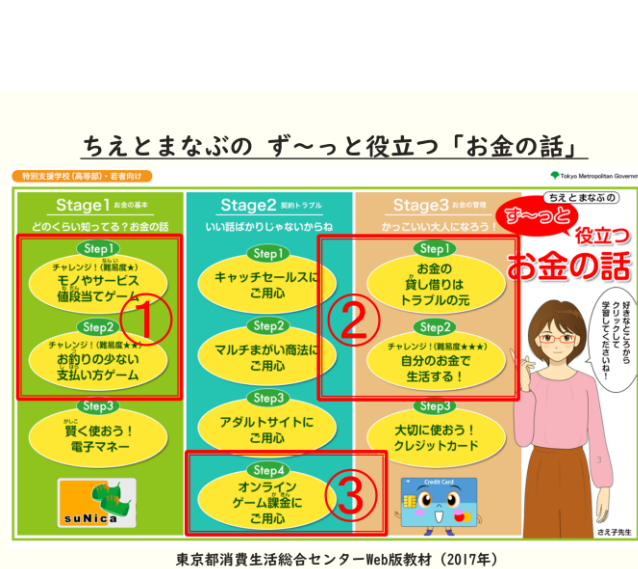


2022年3月8日

# 東京都立光明学園 肢体不自由部門 消費経済講座 報告

昨年度に続き、「卒業後の生活に必要なことを学ぶ」ことを目的とした授業を担当しました。



ご依頼内容

【対象者】

中学部11名、高等部2名、6名 計3クラス

【内 容】

「卒業後の生活に必要なことを学ぶ」

①お金について

②トラブルにあわないために

③将来のために伝えたいこと

使用教材

講師が作成検討会委員を務めた東京都消費生活総合センターのWeb教材「ちえとまなぶのず〜っと役立つ『お金の話』」を使用しました。商品の「相場」やレジでの支払いなど、実際の買物経験が少ない生徒の皆さんには模擬体験の機会を提供することができました。

# 岡山県特別支援学校PTA指導者研修会

この時間は・・・タイトルに沿って・・・

はじめに ① これまでの歩みと きょうの課題

はじめに ② ぜひお伝えしたい3つのこと

1 「18歳で親権離脱」という時代を迎えて・・・

2 特別支援学校生徒・卒業生を

3 浪費や 消費者被害 2「特別支援学校生徒・卒業生を」 2

4 護るために

5 PTAとして できる

6 グループホーム、就

卒業生等の方の 声

■PTAでも いまと 将来に つながる 企画や 学びの 機会をぜひ!

□研修会・・・「親が残すお金」希望多数⇒残さなくても+残しても+親の金では  
⇒PTA講座をお受けする時のテーマ・・・今回のテーマ関連での最大幅を記載

■お金の確保・感覚磨き・管理・トラブル防止を 支えるために

1 支えの力・・・「親なき後」へのご心配と、お金の管理を支える手立て

「親なき後」/兄弟姉妹/お金の確保(全体像、年金支給請求、保険、手当、生活保護、生活福祉資金/お金の管理を支える手立て(障害福祉サービス等:グループホーム・自立生活援助・地域定着支援・居宅介護等、日常生活自立支援事業、成年後見制度、信託等)

2 本人の力と支えのツール・・・お金の感覚磨き、管理・トラブル防止の力の向上のために

「お金」の課題に入る前に(境界線、買い物の課題)/**お金を活かす力**と**護る力の全体像** / 「いい(金銭)感覚」を育むために/「いい(支援)関係」を育むために/子どもたちの「おこづかい」/**トラブル防止**/低学年、中重度の子どもたちの課題/当事者のみなさんに伝えたい!(お金の管理の方法の提案はこの中で)/まとめ・・・**管理・トラブル防止の難しさ**

2022年9月28日、特別支援学校のPTA指導者を対象とした研修会で、18歳での親権離脱から考える消費者被害とその防止をテーマに講演を行いました。

(岡山県教育委員会主催 25名参加)

講師が、こどもとおとなの障害者の方々の支援をしてきた立場から、①「18歳で親権離脱」をどうとらえるか、②卒業後の生活を見すえた教育の重要性、③おとなの障害者の方々の金銭管理や浪費・消費者被害等の状況、④課題の防止・早期発見とそのベースとしての金銭感覚の涵養の手立て、⑤具体的な活動紹介も含めたPTAへのご提案等のお話をさせていただいた後、グループワークでも助言をさせていただきました。

受講者の感想

「お金の問題をわかりやすくお話くださり大変参考になりました」、「学校在学中に成人を迎える準備をしっかりと行いたいです」等の感想を受講者よりいただきました。

国民生活センター主催相談員・行政職員向け 消費者教育に携わる講師養成講座

# 特別支援学校等に通う知的障害(軽度)のある生徒を中心とした若年者 及びその支援者への講座実施に向けて

於:国民生活センターin相模原

2022年10月3日「知的障害者への消費者教育の重要性—知的障害者の特性と消費者トラブル事例を踏まえ—」

## 1. 知的障害者と消費者トラブル

- 本人から消費生活相談が寄せられる割合:相談全体では約8割であるのに対して、障がい者等に関する相談では約4割  
(消費者庁『令和4年版 消費者白書』)
- 相談内容をみると「フリーローン・サラ金」に関する相談や、「出会い系サイト」等の「デジタルコンテンツ」の相談が多い。
- 「発達障害のある息子が女性から宝石を勧められ、クレジットで購入したが、デパートだと思う」「知的障害のある成人の娘がスマートフォンのゲームに課金し高額な請求を受けている」など**判断力の不足**や**契約内容への理解不足でトラブル**になっているケースが目立つ。
- 地域生活を送る上では、**本人の「消費者力」と、地域の「見守り力」**の両方が必要。  
→ **生徒を対象に!**、**教員・保護者を対象に!**

## 2. 特別支援学校等に通う

### 軽度の知的障害のある生徒に向けた消費者教育

知的障害のある消費者の金銭管理の学習のポイントは以下の4つ

- ①お金の大きさを**具体的に理解**できること
- ②現金と同じ価値のある電子マネーも**貸し借りしない**こと
- ③必要な場面では、**はっきりと断る**こと
- ④トラブルに巻き込まれても、**あきらめずに相談**すること

## 2022年10月3日(月)13:00~15:30 【小野講師の講座】

知的障害者と消費者トラブルについて、消費者庁や国民生活センター調査にもとづく解説や、学校教育と社会教育の連携の必要性、そして特別支援学校等に通う軽度の知的障害のある生徒に向けた消費者教育についてお話ししました。

消費者庁の特別支援学校(高等部)向け教材「ショウとセイコと学ぼう!大切な契約とお金の話」について、授業実践にもとづく留意点も検討しました。

## 受講者の感想

- ・知的障害者への消費者教育の取り組みの必要性を改めて認識することができました。
- ・具体的な講座の場面のお話は日々、講座に向かう中で勇気をいただいた思いです。
- ・理解度の幅が広い生徒への講座の難しさも知りました。



国民生活センター主催相談員・行政職員向け 消費者教育に携わる講師養成講座

# 特別支援学校等に通う知的障害(軽度)のある生徒を中心とした若年者 及びその支援者への講座実施に向けて ①

於:国民生活センターin相模原

2022年10月4日 国民生活センターの講師養成講座をCサポで担当させていただきました。今年度は42名の参加で、大変盛況でした。

## 午前の部 9:30~11:30 【江國講師の講座】

知的障害者、支援者に講座を届ける際には課題にフィットし、リアリティのある「お金」の学びが必要で、事前の情報収集がカギを握ります。

そこで、前半はどのような情報収集が必要か、どうやって入手するか、具体的に説明しました。

後半は、支援者向け、当事者向けの模擬授業を実演し、午後の授業案作成に向けて、具体的なイメージを持っていただきました。



### 受講者の感想

- ・事前打ち合わせ、情報収集の大切さ、子供たちの記録に残る手法、さまざまな「お金」もまつわるケース紹介、ぜひ活かしていきたい。
- ・これまでの経験が生かされたお話に、特別支援学校へ出向く際のたくさんの知恵をいただいた。

# 特別支援学校等に通う知的障害(軽度)のある生徒を中心とした若年者及びその支援者への講座実施に向けて ②

於:国民生活センターin相模原

11:40~15:30【窪田講師による進行】

作成する授業(当事者向け)

<テーマ>

知的障害(軽度)のある生徒やその支援者向け  
消費者教育講座案を考えよう!

短い時間の中、プランニングシートを作成し、グループワーク、発表と限られた時間で盛りだくさんのことを実施しました。

限られた時間でしたが、皆さん積極的に取り組み、「地元に戻って生かそう!」という意欲の高さが印象的でした。

依頼先:淵野辺特別支援学校高等部

人数:20名(軽度な知的障がいのある生徒)

時間:50分間(授業の時間を使い、教室で行う)

希望の内容:

- A. 生徒が消費者トラブルにあわないように、トラブル事例の紹介を含めて話をしてほしい。
- B. お金の使い方(限られたお金の中で自分でやりくりする、電子マネーやクレジットカードなどの見えないお金の特徴や使い方など)について話をして欲しい。

受講者の感想

- ・具体的にプランニングシートを書くことで、どのような講座ができるのか皆で確認し、イメージを作ることができた。
- ・グループの人たちとたくさん話をするのができ、知識が増えて、教材を作るのが楽しみになってきた。